



クリスマスが近づきつつある日の授業で、「私からのプレゼントよ」と冬休みの課題を配付したところ、「えーいらん。もっとええもん欲しいわ」と例年のやりとりになりました。（拒絶されると私も少しはへこみます。）一人ひとりを笑顔にできる課題はなかなかないと思いますが、サンタクロースの、他人を笑顔にするために忙しく働く姿勢は真似したいものです。明るい声で挨拶をする、ほほえみかけてみる、「大丈夫？」と聞いてみる。ちょっと勇気を出せば、お互いの心が温くなるのではないのでしょうか。本校で実施しているピアサポートも同じ考え方だと思います。2学期が終わり、3年生はいよいよ勝負の時、1、2年生は進級への準備で、いくら頑張っても不安を感じる日々になります。ストレスや不安感を一人で抱えてしまわないように、寄り添うことを大切に対応したいと考えています。冬休み明けは、特に登校へのプレッシャーが大きくなり、不安感が高まることもあります。ご家庭でも見守りをよろしくお願いします。

**3学期 スクールカウンセラー来校日** 1/18（火） 2/1（火） 2/21（月） 3/15（金）

## パラリンピックの夏に

内田 康晴

この夏、強い印象に残ったテレビ番組がふたつあります。

ひとつは、幼い頃にそうとは知らずに拾った不発弾で遊んでいて、爆発して弟を亡くし、自らの手と視力を失った藤野高明さんという方のドキュメンタリーです。指でなぞって点字を読むことが教えられないからと盲学校からも入学を断られ、どんどん学んで成長してゆく同級生にひとり取り残されてゆく。「文字が読みたい。人間の創った文化が学びたい。」という気持ちはあったものの、引きこもったような生活が何年も続いた。が、あるきっかけで、何度も練習するうちに唇で点字を読めるようになる。「文字が読めるようになったということは、暗闇の世界に光が差したように感じた」といいます。藤野さんは、当時まだまだ障害者に開かれていなかった扉を一つ一つこじ開け、大学へ行き、高校の社会科の教員免許を取り、教員採用試験に合格して教師になります。障害のあるなしに関係なく、一人の社会科の教師としてしっかりと力量をつけようと思ったといいます。

もう一つは、東京パラリンピックの水泳で数多くのメダルを獲得した鈴木孝幸選手の保育園の運動会の映像です。両足がなく両手に運動靴を履いた幼い園児が、健常者のみんなと同じスタートラインについている。よーいドンで、他の子は先に行ってしまうけれど、取り残された悲壮感などなく、園児は両手で這ってただ一生懸命かけっこに参加している。周りも普通な感じで、暖かくそれを応援している。短いものでしたが、彼がどのように育てられたか、育ってきたかを端的に表すその映像に衝撃を受けました。



失った能力、もっていない能力を残念がったり悲しんだりするのではなく、残された能力を最大限に生かす、今もっている可能性を最大限に広げる。そういうことができている人たちに心からの尊敬の気持ちを抱かずにはいられませんでした。私は、健常者ですが、周りにもかなわない能力の高い人がいて焦ったり、最近では年齢から来る衰えに落胆したりします。そういう、自分自身も救われる生き方のお手本に思えました。

## イラン人の涙

小河 泰貴

大学院生のとき、在日イラン人について人口地理学の手法で研究を行っていた。2011年夏、旅行と調査を兼ねて一人で2週間ほどイランへ行った。ホテルも何も予約せず、行きと帰りの航空券を握りしめて。

東アジア地域からイランを訪れる人はそう多くない。私のような東洋人が一人で歩いていると、やはり目立つのであろう。行く先々で声をかけられる。英語で「ハロー」と声をかけられ、「サラーム」とペルシア語で返すと相手は非常に驚く。「ザバーネ ファールシー ハイリー モシュケラスト（ペルシア語はとても難しいです）」は相手を笑わす鉄板の言葉だった。

一人歩いている東洋人は珍しく、場所によっては人だかりができるほどであった。イランの人々って温かいなと思ったエピソードを一部紹介すると、①若者グループにお金を奪われ「泥棒」と叫んだら、数十人のイラン人がその若者を捕まえてお金を取り返してくれた。その後しばらくボディガードのように1時間ほど私と行動を共にしてくれた。②日中の熱さに堪えて街中で寝ていたら、イラン人学生たちが集まって心配し声をかけてくれた。③夜行バスの待合所にいると、次から次へと人が集まってきて、人によっては自分がかけていたネックレスをくれた。

ここには書ききれないくらい、多くのイラン人にお世話になった。日本に帰国し、在日イラン人の研究を再開した。東京に住んでいるイラン人に「海外でどこが一番よかった？」と聞かれ、「イランが一番よかった」と答えると、その人は泣いて喜んでくれた。「日本人はイランに良い印象を持っていないから嬉しい」と。

あの夏の2週間から10年が経過した。イランという国が私にとって特別な理由は、研究対象であったからではない。イランという国に、お世話になった人々が住んでいるからである。

## A Gift

信宮 優子

この上なく幸せな瞬間というものは、突然天から降ってくるものなのかもしれない。

その日曜日は、2歳の息子と二人で姉宅へお邪魔することになっていた。夫が2時間ほど出勤するというので、車に乗せてもらい、途上で姉宅へ、帰りも夫にピックアップしてもらう予定だった。車から降りて夫を見送り、姉宅を訪ねると、何の手違いか留守だった。慌てて電話をしてみると日程の勘違いで外出しており、すぐ帰っても1時間半はかかると言う。さて困った。自宅に帰るにもバスも電車も不便なところ。コンビニが一軒あるだけの住宅地で、時間を潰せそうな店もない。

たった一つ思いついたのは何度か車で出かけたアイスクリーム屋だった。車で5分とはいえ、2kmはある。2歳児の足では30分以上かかるだろう。土台彼が歩ききる保証もない。おんぶや抱っこでは大変だ。心配しつつも息子に尋ねてみた。「歩ける。」笑顔で答える子を連れて、歩き始めた。

歌を歌いながら、しりとりをしながら、なぞなぞを出し合いながら、サークルゲーム（ご存じですか？）をしながら、特に彼を励ますこともなく、ただ楽しく、ただ笑って、2kmを歩いた。アイスを食べ、帰り道、また同じように歌やしりとりやなぞなぞを道中の友に、手をつなぎながら、私の足下を愉快そうにくるくると回る子といっしょにくるくるしながら、ただただ楽しく、ただただ笑い合って2kmを歩いた。

ちょうど姉宅が見えた時、姉の車が帰ってきた。まもなく夫の車も予定通り到着した。恐縮がる姉にこの2時間の出来事を短く話し、夫の車で帰宅した。

もう15年も前のことである。尋ねたことはないが、おそらく息子にはこの記憶はないだろう。私の記憶にも、残るのは「楽しかった思い」だけである。このとき話したことは具体的には何一つ思い出せないし、一葉の写真ももちろんない。それでも、生涯を終えるときに人生で最も幸せな瞬間を選ぶなら、一番とは言わないまでも、五本の指に入る瞬間だと信じて疑わない。私の心の引き出しの中で、役に立たなそうできてそれでもとても大切に、ひっそりと収まっている記憶である。「へその緒」のように。

後日談がある。その翌日月曜日、同僚の先生から声をかけられた。「昨日、息子さんと手をつないで歩いているのを見ましたよ。それが、なんとも楽しそうでねえ。」そうなんです。幸せだったんです。

一人の人として、我が子と意見が違うこともあるし、親として、何かと心配もする。だが、こんな幸せをくれるんだったら、親業も悪くないな、いやいや素敵だよな、と、この天からの贈り物に感謝している。



# 「いじめ問題・悩みに関する調査」結果の概要

高岡 麻衣

教育相談課では、今年も全学年を対象に「いじめ問題・悩みに関する調査」を行いました。長年、継続的に実施しているもので、毎年この冬の号で結果報告をしています。学校の中で「いじめ問題」が起こっていないか、また日頃生徒がどのような思いや悩みを抱えているのか等を調査しています。その結果を経年比較することや共に考えることで、新たな気づきや行動変容も生まれてきます。調査結果は、全ての教員で共通理解を図り、様々な問題に迅速に対応し、落ち着いた高校生活が送れるように協議しています。

令和3年度調査日 3年生：5／26（水）LHR 1. 2年生：9／16（木）LHR

## ☆全体的な傾向・各学年の特徴

例年と同じく各学年とも他項目と比べてややポイントが高くなっているのが「勉強の仕方」「将来の見通し」「他人からの評価」です。学年に関係なく多くの生徒が勉強面や将来についての悩みを抱えており、不安や焦りなどの気持ちも大きいようです。高校生は他者との関係の中で自意識が高まる時期なので、「他人からの評価」のポイントも高くなっています。

1年生は、2、3年生と比べると「クラスの中に問題がある」の項目で数値が高くなっており、朝日祭等のクラス活動を通して人間関係の壁にぶつかったり、悩みながらも成長していく過程であることが伺えます。

2年生は、「体調をよく崩す」「友人関係の悩み」「学校に行きたくない」などの項目が1年調査時より増加している一方で、「学校内に信頼して相談できる人がいない」「友人がいない」「クラスの中に問題がある」などの項目が減少するなど、学校生活を送る中で信頼できる友人を得て集団としてのまとまりが出てきた様子が感じられます。

3年生は、1・2年調査時と比べるとほとんどの項目で数値の減少がみられます。「勉強の仕方」「将来の見通し」の項目でも学年があがるにつれ減少しており、高校生活の中で自分なりの勉強方法を確立したり、自分自身と向き合いながら自己実現を目指そうとしている姿が感じられます。また、「友人関係の悩み」「家族に悩み相談できない」の項目も減少しています。家族や友人とも良い関係を築きつつ、様々な不安を乗り越えようとしている姿が推察されます。

## 問A いじめ・悩みについての質問の結果（抜粋）

「問A」質問事項	3年	2年	1年
a 生活のリズムが整わず、体調をよく崩す。	1. 8	1. 8	1. 8
b 友人関係で悩むことがよくある。	1. 5	1. 6	1. 6
c 学校内に信頼して相談できる人がいない。	1. 5	1. 5	1. 6
d 勉強の仕方がわからず、集中できない。	1. 8	<b>2. 0</b>	<b>2. 1</b>
e 将来への見通しが立たず、気が滅入る。	1. 9	<b>2. 1</b>	<b>2. 0</b>
f 学校に行きたくないと思う。	1. 7	1. 9	1. 8
g 私には友人がいない。付き合いがうまくいかない。	1. 3	1. 2	1. 3
h 私はいじめられている。	1. 0	1. 1	1. 1
i からかわれたり手を出されることがあり、いやだ。	1. 1	1. 1	1. 1
j 言葉や態度で傷つけられることがある。	1. 2	1. 2	1. 2
k クラスの中に改めるべき問題がある。	1. 2	1. 3	1. 5
l いじめたりいじめられたりしている人がいる。	1. 1	1. 1	1. 1
m 人が私をどう思っているのかとても気になる。	<b>2. 0</b>	1. 9	<b>2. 0</b>
n 私のことをわかってくれる人は一人もいない。	1. 3	1. 3	1. 3
o 家族は私に過剰に期待をかける。	1. 4	1. 4	1. 5
p 家族には、悩みがあっても相談できない。	1. 5	1. 6	1. 5
q 私の落ち着ける場所はない。	1. 2	1. 3	1. 3

1＝あてはまらない 2＝あまりあてはまらない 3＝ややあてはまる 4＝あてはまる の4件法で回答し、平均値を表す  
＊回答は、最高値4 最低値1・・・数値が小さい方が良い状態となります。

## ☆思春期について

思春期は、身体の変化以上に心の変化に戸惑いながら成長する時期です。とても不安定で、自分自身をコントロールするのが難しくなります。親からの自立も本格的になり、「自立したい」気持ちと自立の不安からの「甘え」の間で揺れ動きます。また、友人関係でも他者からの評価に敏感になったり、自分への関心が高まり、自分自身がどうありたいかを考えるようになります。誰もが一度は通るけれど一度しかないこの時期に、多様な他者との関わり合いや様々な経験をどれだけ積めるかということがその先の人生においても重要になっていきます。失敗もあるけれど、必要以上に恐れずにこの時期を謳歌してほしいと思います。我々教員は、生徒が自己実現していく過程を信じて見守り、SOSを発しているときには救いの手を差し出してあげられるような存在でいたいと思います。

## ☆いじめの実態について

いじめに関連した項目は、質問h～lまでになります。その数値は高くはないものの、毎年皆無ではありません。今年の調査では、いじめと断定できるようなものはなかったものの、嫌がらせについての具体的な内容の記載もあったため、担任や各関係者等により早急に対応をしています。また、表面的には見えづらけれど、ネットや SNS 上など、教員の目の届きづらいところで傷つき体験をしている生徒はいるようです。

## 問B 【朝日高校に「いじめ」はありますか。あるとすればどのようなことですか】(自由記述)について

「知っている限りではない」「ないと思う」「見たことはない」「知らない」が多数の意見でしたが、「暴言、悪口、嫌がらせ、からかい、仲間はずれ」「学力の差によるいじめ、偏見、差別、からかい」「表面上ではないがネットや SNS 上ではある」などの記述もみられました。また、「いじりの延長」「当人たちがどう思っているのか分からないグレーゾーンのものはいくつもある」など、友達同士の関わり合いの延長でも受け取る側にとってはいじめとなり得るようなものの記述もありました。また、少数ですが、「人間生活をしている以上起こる現象」「学校という概念がある以上いじめが起これないはずがない」など、「いじめは仕方がないこと」と捉えるような、気になる記述もありました。この調査では記名がある場合とない場合がありますが、調査回収後、気になる事例については、まずは担任・学年団、そして教育相談課が必ずフォローしています。

## ☆知って欲しいこと・訴えたいこと(自由記述)では、こんな声もありました！

・孤立する人をつくりたくないの一人一人の気遣いがいる。／友人が何役もの仕事を押しつけられる形になり、朝日祭の時期に思い悩んでいるのを見て心が苦しくなった。(2年生)・・・周りの人に目を向けて、困っている人はいないか、その人のために自分に出来ることは何かあるだろうか、と考える思いやりの心が感じられます。朝日高校には、仲間同士で支援し合うための考え方やスキルを身につける「ピアサポート」という活動があります。教員や保護者にはなかなか言えない胸の内も、友達には話せる、という生徒もたくさんいるのではないのでしょうか。ピアサポートの広がりが根付くことを期待しています。

・勉強のやる気がでません。／将来やりたいことがわからない。(1年生)・・・1年生は、朝日高校に入学後、授業のスピードやレベルの高さ、クラスメイトの学力の高さに衝撃を受けつつも、がむしゃらに勉強に取り組んできたことと思います。中には、中学生までの「できていた自分」と高校入学後の「できない自分」のギャップに悩んだり、自信を失いそうになっている人もいます。そんなときほど、周りと自分を比べてしまいがちです。周り比べて悲観的になるのではなく、自分自身の目標をしっかりと持ちそこに向かって努力し、自分の中の伸びしろを大切にしてほしいと思います。また、現時点で将来の夢や目標が定まっていなくても焦る必要はありません。この先の高校生活の中で、多様な他者との関わり合いや様々な経験を積んでいくうちに自ずと見えてくるものもあるはずです。じっくり自己と向き合い、自分自身についてしっかりと考える過程を大切にしてほしいと思います。

本校では「いじめ問題」等の実態を把握した際には、学年団をはじめ教育相談課・各関係者等で対策を協議し、毅然とした態度でその解決に努めています。何か気になることや心配事などがある時には、遠慮なく教育相談課や保健室に相談に来てください。また、令和元年度より、生徒が匿名によるいじめ等の相談・報告を行うことができるアプリ「STOPit」を導入しています。いじめを受けていたり、いじめに周りで気付いたが、直接相談に行くのは行きづらい…という方は、アプリの活用も検討してみてください。あなたは決してひとりではないことを忘れないでください。